

事業強化に繋がる脱炭素セミナー

EcoNiPass

会社概要

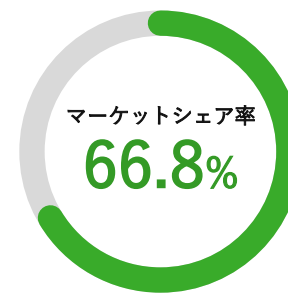


The Data Empowerment Company

| | |
|------|---|
| 商号 | ウイングアーク 1 s t 株式会社 (英文表記: WingArc1st Inc.) |
| 所在地 | 〒106-0032 東京都港区六本木三丁目2番1号 六本木グランドタワー |
| 創業 | 2004年3月 |
| 資本金 | 10億8,400万円 (2022年2月末現在) |
| 事業内容 | ソフトウェアおよびサービスの開発・販売 |
| 決算期 | 2月 |
| 売上高 | 223億 (2023年2月末) |
| 従業員数 | 単体705名、連結799名 (2023年2月末現在) |

事業領域

ビジネスドキュメント

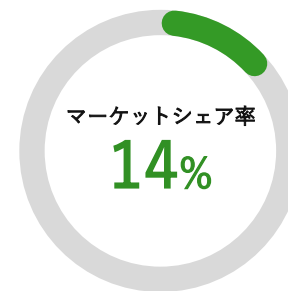


帳票市場国内シェアNo.1

累積導入社数
SVF:**32,900社**以上※

出典: 株式会社デロイトトーマツミック経済研究所「帳票設計・運用製品の競合調査2022年度版」(帳票運用製品)
※クラウド版とパッケージ版の合計累積社数 (2023年2月末)

データエンパワーメント



BI市場国内シェアNo.1

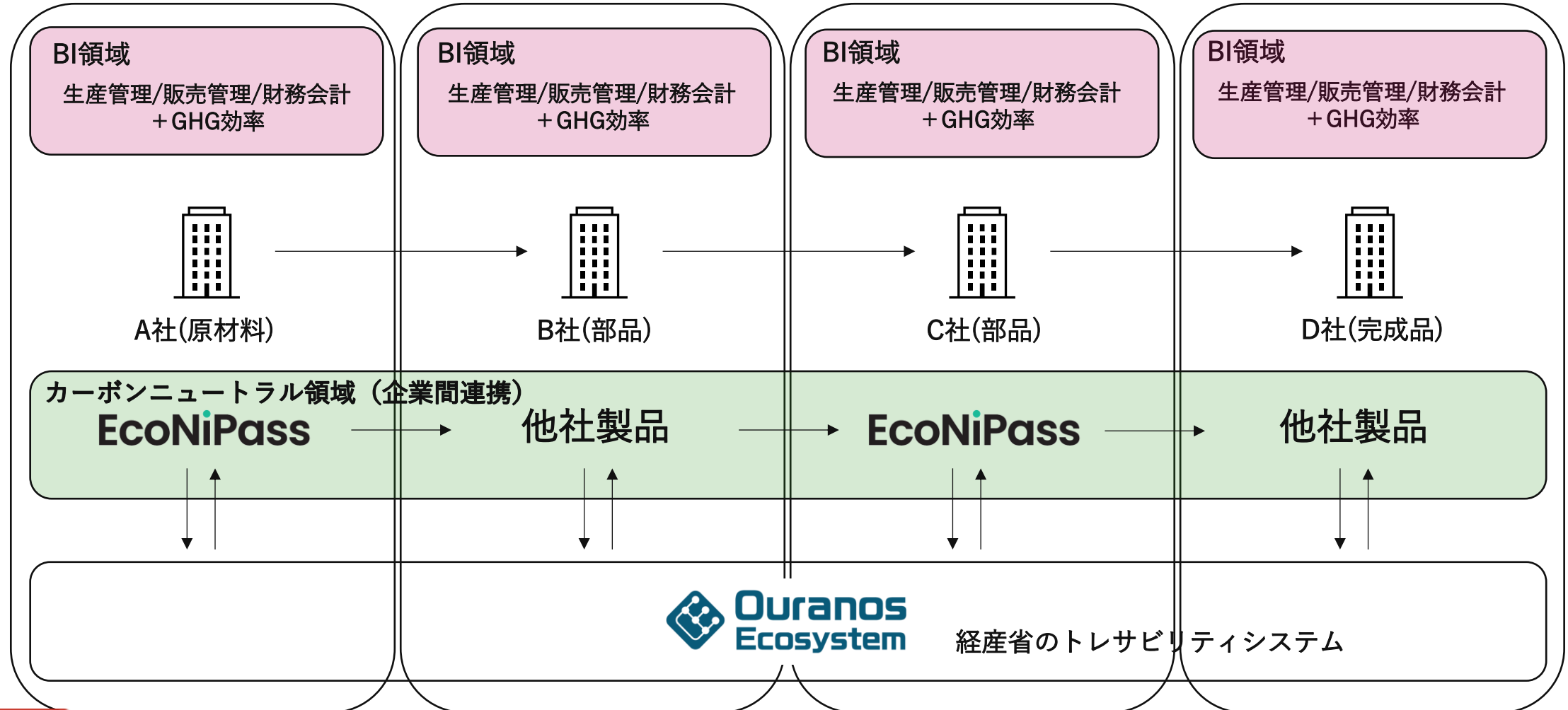
累積導入社数
Dr.Sum:**7,200社**以上※
MotionBoard:**3,100社**以上

出典: ITR「DBMS/BI市場 2021」データ分析/レポート市場:ベンター別売上金額推移およびシェア
※クラウド版とパッケージ版の合計累積社数 (2023年2月末)

BIツールとの連携イメージ

横のつながりはEcoNiPass。縦の領域はBI。

- 社外のシステムと繋げるのはEcoNiPassで、社内分析用のツールとして、BIツールを提案するのが最善だと考えます。
- EcoNiPassであれば、簡単にDr.Sum/MotionBoardへデータ連携が可能となりますので、他のデータとの掛け合わせが可能となります。



EcoNiPassの特徴と機能

EcoNiPassの特徴

EcoNiPassは**可視化から削減まで一気通貫でカーボンニュートラルの実現を支援**します。
ウイングアーク1st株式会社が、CO2排出量可視化プラットフォームサービス「EcoNiPass」提供し、可視化ができた後はエコパートナーが、削減に向けたコンサルティングや削減ソリューションを用いてご支援します。

可視化



CO2排出量の
算出・可視化



サプライチェーン
連携



製品別のCO2排出量
(CFP)の可視化



省エネ法対応



Web API公開予定



多数のEcoNiPassパートナーと連携

削減コンサル・削減ソリューション

EcoNiPassエコパートナー
カーボンニュートラル削減に
向けのご相談

EcoNiPassパートナーが、CO2排出量の算出/可視化に関するご相談に加え、排出量の削減に向けのご相談を承ります。

②-1 サプライチェーン連携

標準搭載

CO₂排出量の可視化は、**企業価値を示すサプライチェーン排出量**と、**製品価値を示すLCA排出量（カーボンフットプリント）**の2つあります。

サプライチェーン排出量

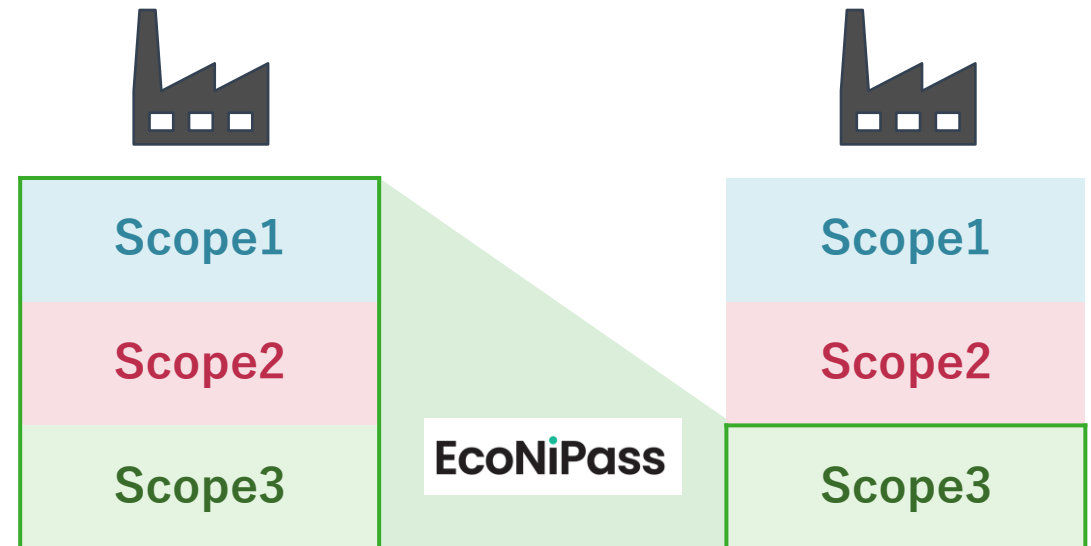
| | |
|----------------------------|-------------------------|
| 算出範囲 | 企業の事業活動 |
| 算出対象 | Scope1,2,3 |
| Scope3 (他社排出量) の算出方法 | 統計データを用いる (=一企業にて完結) |
| 訴求価値 | 企業価値 (= 機関投資家向け) |
| 想定市場 | 大手企業のみ (現状: プライム上場企業) |

A社向けの活動量を入力することで、自動的にScope3へ連携

例 | B社生産量 10,000個/月、A社向け2,500個/月

サプライヤーB社 (A社へ部品納入)

部品製造メーカーA社



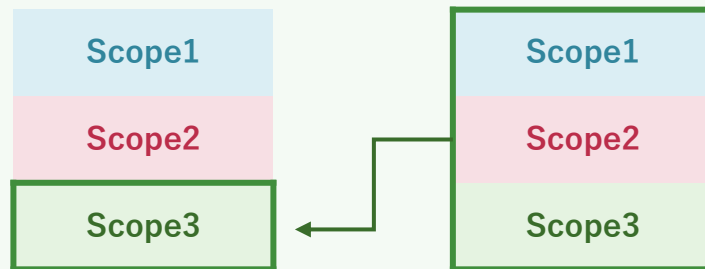
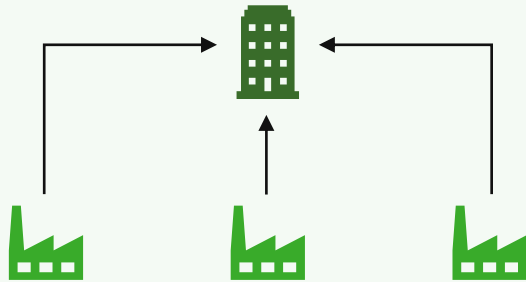
B社全体のエネルギー
使用量を入力

②-2 サプライチェーン連携

標準搭載

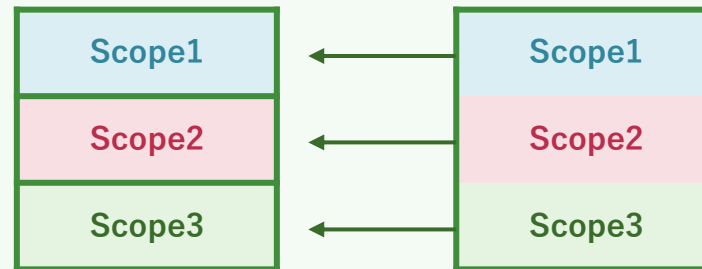
サプライチェーン連携機能は、サプライチェーンとの連携のみでなく事業所や企業グループ単位での集計が容易になります。

【1】 サプライチェーン



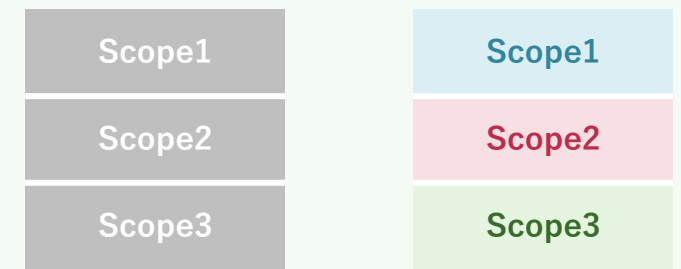
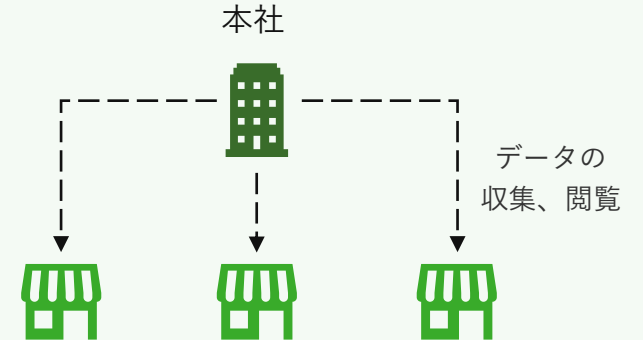
メーカーとして、サプライヤーの排出量を自社に取り込んで管理

【2】 事業所データの集計



本社として、各事業所の排出量を集計して全社のデータを管理

【3】 事業グループでの活用



脱炭素支援や金融支援のデータ収集ツールとしてのご活用

③-2 製品別のCO2排出量(CFP)の可視化

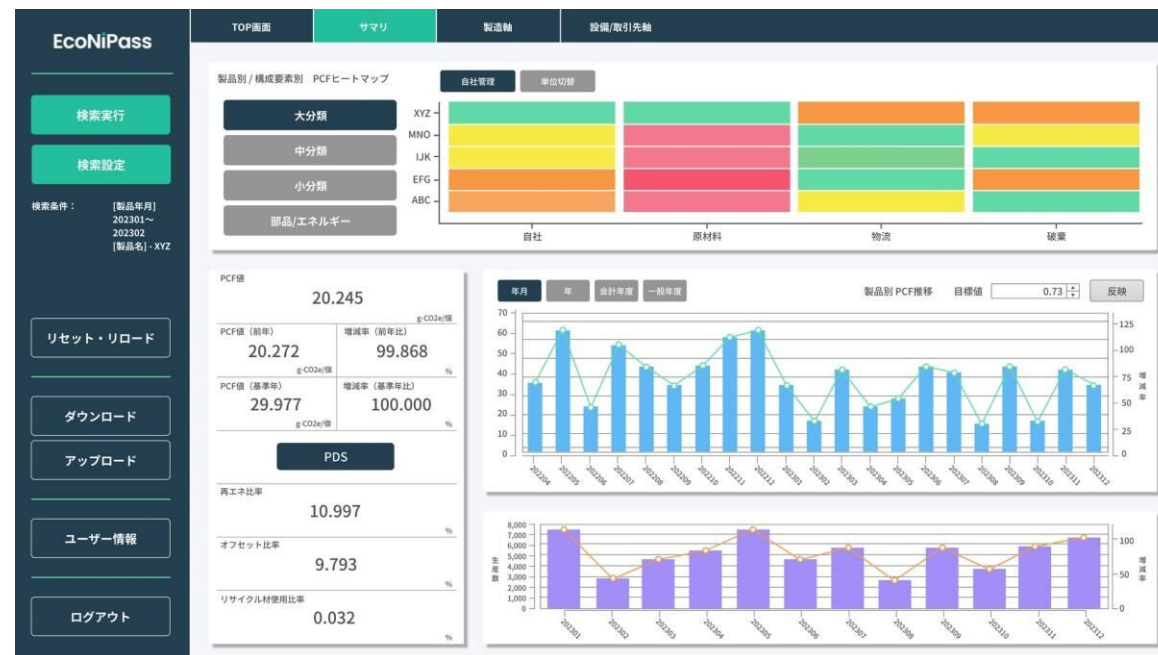
製品別のCO2排出可視化(CFP)

- LCA（ライフサイクル・アセスメント）の算出は、サプライチェーン全体での実測や情報連携が必要で、多くの企業にとって大きな負担（コスト、業務工数）となる見込みです。
- EcoNiPassでは**製品単位**、**製造ライン単位**での可視化や詳細な分析が可能で、**CO2排出量削減時の施策の検討が容易**になります。

CFP（カーボンフットプリント）

| | |
|-------------|--|
| 算出範囲 | 製品のライフサイクル |
| 算出対象 | Scope1,2,3 |
| Scope3の算出方法 | 活動量 × 実測データ |
| 実測データ | 関連企業（上流）の実測値 ※Scope1,2,3(3のうちカテゴリ1,4,5) |
| 算出内容 | 製品価値（=消費者向け） |

EcoNiPassの可視化画面



④ 省エネ法報告レポート

オプション機能

- 省エネ法は「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律」の通称です。
- 省エネ法は、原油換算で年間1,500kl以上使用する事業者を「特定事業者」と定めています。
- 特定事業者は、毎年7月末日までに事業者全体及びエネルギー管理指定工場等のエネルギー使用量等の情報を記載した定期報告書と中長期計画書の提出をする必要があります。

出典：[-2023年度版-省エネルギー法 定期報告書・中長期計画書\(特定事業者等\)記入要領](#)

専用シートに入力



専用フォーマットに入力するだけ

- 管理画面から専用のフォーマットをダウンロード
- 2種類のExcelシートにデータを入力

アップロード



ボタン1つで簡単アップロード

- フォーマットをアップロード
- アップロードで、データ投入が完了

データを自動集計



集計の手間いらず

- 投入したデータをEcoNiPassが自動で集計
- 省エネ法報告に対応したデータ作成

省エネ法報告データが抽出



報告業務の効率化

- EcoNiPassからデータを抽出
- 抽出データを経産省指定のフォームに転記

カーボンニュートラルの 難しさは？

WingArc1ST
The Data Empowerment Company

Copyright © 2024 WingArc1st Inc. All Rights Reserved.

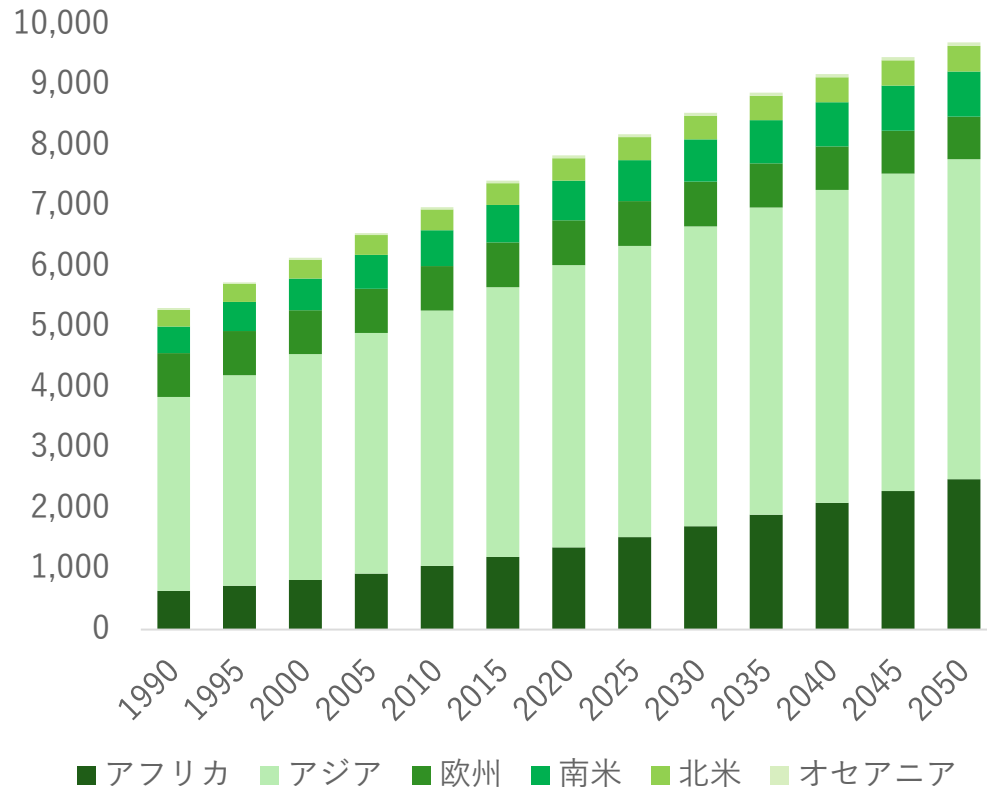


カーボンニュートラルの難しさ

世界の人口と、世界のGDPの年平均成長率は今後も伸長しますが、伸長してもCO2の削減目標は46%です。

世界2050年の人口(国連推計)

2050年の世界の人口は97億人(2015年比1.3倍)うち、アジアの人口が53億人



世界の実質GDPの年平均成長率 (%/年)

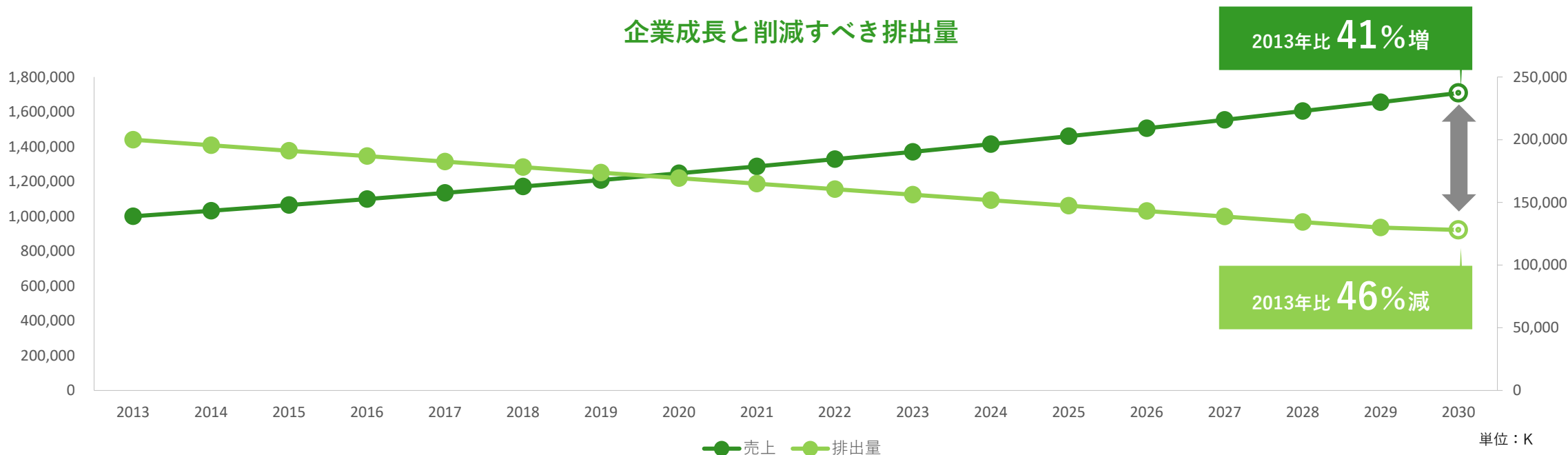
世界の実質GDPは国際エネルギー機関であるIEA(2016)は、2050年までの年平均成長率を3.2%想定。2050年の実質GDPは、2013年比で約3倍。

GDP 約3倍

| | 2013-20 | 2020-30 | 2030-50 | 2013-50 |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| 世界全体 | 3.7 | 3.8 | 2.8 | 3.2 |
| OECD | 2.2 | 2.0 | 1.6 | 1.8 |
| Non-OECD | 4.9 | 4.9 | 3.3 | 4.1 |
| ASEAN | 5.3 | 4.8 | 3.4 | 4.1 |
| ブラジル | 1.4 | 3.9 | 2.8 | 2.8 |
| 中国 | 6.5 | 5.3 | 2.7 | 4.1 |
| EU | 1.9 | 1.8 | 1.5 | 1.6 |
| インド | 7.5 | 6.6 | 4.5 | 5.6 |
| メキシコ | 3.3 | 3.5 | 2.3 | 2.8 |
| ロシア | 0.2 | 3.5 | 2.1 | 2.1 |
| 南アフリカ | 2.3 | 2.9 | 2.5 | 2.6 |
| 米国 | 2.5 | 2.0 | 1.8 | 2.0 |

カーボンニュートラルの難しさ

- カーボンニュートラルは、単純に取組みCO2排出量を削減するだけではない点が、実は難しいところです。
- 世界GDPの成長は年平均3.2%と変わっておらず、41%のGDPを上げた場合にも46%のCO2を削減が必要です。
- 各企業では、削減数値目標は変わらないため**売上増加に伴って削減幅が増大し、実は想像以上に「カーボンニュートラル」への取組みは大変**なのです。



- 企業経営を考えると、カーボンニュートラルに取り組みながら利益を上げなくてはいけない
- 取組み開始が早いほど低コストで行い確実に実行できる

2030年にカーボンニュートラルの取組みを開始しては、手遅れになる可能性が…

カーボンニュートラルに取り組むメリット

カーボンニュートラルへ取り組むメリットは、大きく5つあります。
直接的な売上増加やコスト削減の他、PRや採用面でのアピールに繋がる間接的な効果も見込めます。

優位性の構築

取引先からカーボンニュートラルへの取り組みを要求された場合、応えることで売上の維持・拡大と更なる受注機会の獲得に繋がり、他社との差別化、自社製品の競争力の強化が期待。

光熱費・燃料費の低減

エネルギーを多く消費する従来のプロセスや設備を見直し、省エネや再生可能エネルギーなどを活用することで光熱費や燃料費の低減が可能。

知名度・認知度の向上

排出量の大幅な削減の達成により、先進的企業として表彰されたり、メディアなどで取り上げられるなど企業のPRに利用できる。

社員のエンゲージメント向上・ 人材獲得力の強化

問題に取り組む姿勢を示すことで、社員の共感を呼び、信頼を得られるほか、意欲的な人材を集める効果が期待される。

資金調達で有利

融資の評価基準の一つにカーボンニュートラルへの取り組み状況が挙げるケースも増えており、低金利の融資を受けられることが期待される。

EcoNiPassの脱炭素経営へのSTEP

EcoNiPassは、CO2排出量可視化プラットフォームです。

削減に向けた**見える化を実現**し、削減に向けた計画立案支援、削減施策の実行までトータルでサポートしていきます。

現状把握
(見える化)



CO2排出量算定



削減ポテンシャル診断



シナリオ分析・戦略立案

削減計画策定
(わかる化)



ロードマップ策定
削減ポテンシャル診断
管理・削減範囲の決定



排出量見える化
(運用)

実行(排出量削減)
(現場最適化)



調達・機器改善



CO2排出量管理



業務プロセス改善

事業運用
(事業・経営最適化)



請求書・納品書連携や
販売/会計データとの掛け合わせ



会計ソリューション
調達/生産データとの連携

優先度高

サプライチェーンの想いをつなぎ
ともに未来を織りなしていく

EcoNiPass